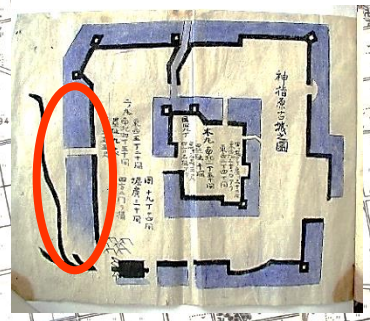
天文五年（一五三六）「白髭の水」で変化した阿賀川と神指城

「神指原古城之図」　○は堤防下にある川や堀跡



如来堂村は寛永13年（1636）の洪水によって現在地に移転。阿弥陀如来堂を建てため如来堂という

神指城跡は、慶長5年（1600）3月18日から6月10日まで工事した未完成の巨大な平城跡。徳川家康の上杉討伐令が出たので工事を中止。本丸部分は、門まで完成したとされ、上杉氏の米沢移封前に破城。昭和42年のほ場整備以前の地形図からると、二ノ丸は南北約750メートル、東西約710メートル。面積は約55ヘクタールで、若松城跡の約2倍。大手口は、東側に位置。北東の鬼門にある樹齢約600年の「ケヤキ」（国指定天然記念物）を基点に、上杉景勝家臣、執政の直江兼続が、北極星を基準として夜測量、町割までした。『塔寺八幡宮長帳』によると、神指地区の十三村を強制撤去、領内から8万から12万人を動員し、家臣の割普請によって工事をした白河方面に移動しています。城の北、温泉施設の地には、謙信の遺骸を納めた御堂（みどう）が建てられましたが未完成に終わっています。

湯川新水路は、昭和9年（1934）から工事を開始、戦争中断後、昭和26年（1951）に工事再開。昭和35年（1960）に完成します。

湯川は、現在の流れになるまで、糸掛川⇒東黒川堰⇒車川⇒湯川と流れが変化。

糸掛川

東黒川堰

車川

若松城跡

湯川

古川

湯川は応永26年（1419）の洪水で小田橋付近を押切り流れが変わったので押切川といっていた

蟹川

大島

天文五年（1536）
洪水後の阿賀川（大川）

大川

応湖川

昭和の初めまで、阿賀川の支流「応湖（おうこ）川」があり舟運に利用

天文五年（1536）洪水前の阿賀川（鶴沼川）

荒井

下野

橋詰（爪）

鶴沼川

「本郷邑向羽黒古墨之図」

向羽黒山城跡
永禄11年（1568）～
慶長6年（1601）

大川

岩崎

特定非営利活動法人　会津阿賀川流域ネットワーク　TEL　0242-27-2921　FAX　0242-27-2922